



近藤惇さん

学生科学賞の2研究 優秀賞

国際学生科学技術フェア

高校生らが参加する世界最大の科学コンテスト「国際学生科学技術フェア」(ISEF)。今年も、日本学生科学賞(読売新聞社主催、旭化成協賛)代表として出場した高校生らがオンラインで研究発表し、2研究が本賞にあたる優秀賞、1研究が特別賞を受賞した。受賞者らは「世界の中で認められた」と喜びを語った。

ガの幼虫に産卵して寄生するハチの習性について調べた。

は、動物科学部門3等に入った。専門家との質疑に対応するため、

1 研究に特別賞 高校生ら喜び

事前に約2000の想定問答を作って発表に臨んだ。「英語での準備は大変だったが、注目してくれてうれしい。『どう社会に役立てられるのか』という質問が多く、海外での評価のされ方がよくわかった」と振り返った。

京都橘高(京都府)2年の近藤惇さん(17)は、田畑に肥料の成分が浸透しているかを確認するセンサーの開発で地球環境科学部門4等選ばれた。「悔いなく発表できたのがよかった。発表内容を一層よくできないか見返すなど、いい経験ができた」と語った。

今春に は、採譜を目的に楽曲からギターやベースなどの各

パートを取り出すプログラムを開発。特別賞である米国人工知能学会(AAAI)の奨励賞が贈られた。村松さんは「自分もよく知る著名な学会から選ばれたことがうれしい。海外の大学院への進学など、視野が一層広がった」と話した。